



栗原のふつう

— 宮城県栗原市

よくある地方のごくありふれた
ふつうのまち。

空が広くて、山があって、地面があって、
水が流れて、田畑があって、
生活している人がいる、ふつうのまち。

でも、栗原のふつうをよく観ると、
ふつうだけどふつうじゃないのが
観えてくる。

オーソドックスな日本のなかの、
とっておきのふつうが観えてくる。



一般社団法人
Kurhara
Tourism
Network
くりはらツーリズムネットワーク

<http://ktnpr.com/>

001 えびもち

冠婚葬祭はもちろん、お盆や正月などの年中行事
では、必ず餅料理を神仏に供えて、そのお下がりを
食べるのがご馳走でした。

多い地域では、年間に70日も餅を食べる日
があったそうです。今でも、一家に一台は餅つき機
があるほど。

たくさんの種類がある餅料理のなかで、沼エビを
使った「えび餅」は定番の餅料理。沼で採った沼
エビを醤油と酒で調味し、餅とからめます。

エビは火を通すと赤くなり、餅とからめると紅白
で見た目にも美しいので、お正月やお客様が来た
ときのご馳走として作られてきました。

沼エビの姿そのままに餅とからめているので、初
めて見た人にはなかなか強烈なインパクトを与
えるそうです。

沼エビは、餅料理の以外にも、おひたしにかけたり、
大根おろしと一緒に食べます。

立派なお髭が口の中に刺さることがあるので、
どうぞご注意ください。